特集②

オープンデータからみる北陸新幹線福井開業後の観光動向

2024年3月16日、構想からおよそ半世紀の時を経て、ついに北陸新幹線が福井県内開業を果たした。

開業から約10ヶ月が経過した現在、その効果はどれほど表れているのだろうか。今回の特集では、オープンデータを活用して、新幹線開業後の観光動向を把握し、これからの福井の観光の在り方を探る。

観光来訪者数は増加

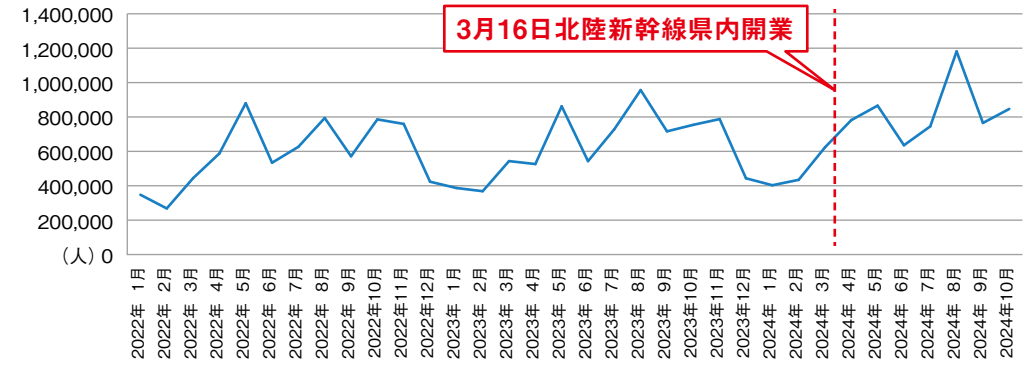
福井県への観光来訪者数について(公社)日本観光振興協会のデジタル観光統計オープンデータをもとに確認する。

北陸新幹線が開業した2024年3月からの観光来訪者数は前年、前々年と比較して、5月が一昨年をわずかに下回った以外はすべての月で上回る結果となった。開業直後である4月が前年比約48%増加と最も増加率が高いが、大型連休により例年観光客が増加する8月は118万1240人が訪れ、前年比28%の増加となった(グラフ1)。

福井県観光データ分析システム「FTAS(エフタス)」から見る観光動向

続いて福井県観光データ分析システム「FTAS(以後、エフタス)」から県内の観光動向を把握する。

グラフ1 福井県への観光来訪者数

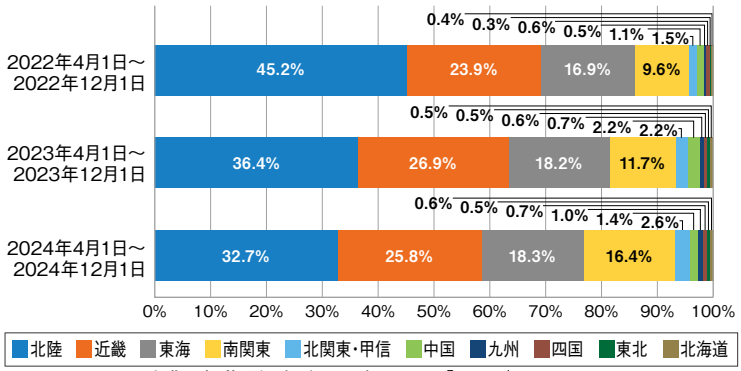


出典:デジタル観光統計オープンデータ(https://www.nihon kankou.or.jp/home/jigyou/research/d-toukei/)(2024年12月利用)

来訪者の発地エリアと交通手段

まず、福井県外からの観光来訪者について、どの地域からの来訪が多いか確認する。最も多いのは元々つながりが深い北陸であり、地理的にも近い近畿、東海地域と続くことは例年同様である。ただし北陸新幹線開業後は、北陸からの来訪者の割合が減少し、代わって新幹線開業で直通した東京をはじめとする南関東の割合が増加した(グラフ2)。

グラフ2 発地地域

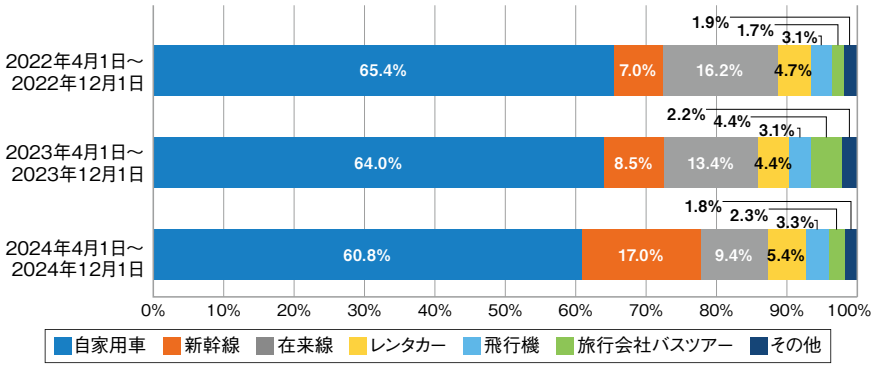


出典:福井県観光データ分析システム「FTAS」 ©FTAS

続いて、観光来訪者の福井県までの交通手段について確認する。自家用車の割合が最も高く、直近3年間で毎年6割を超える。一方で

２０２４年は新幹線の割合が前年、前々年から倍増した（グラフ３）。関東・甲信地域からの来訪者に限定すると、２０２４年の新幹線の利用割合は４割を超え（一昨年、昨年は２割代）、交通手段の中で最も高くなる。北陸新幹線の開業が同エリアの観光客を福井県に呼び込む大きな役割を果たしたことが読み取れる。

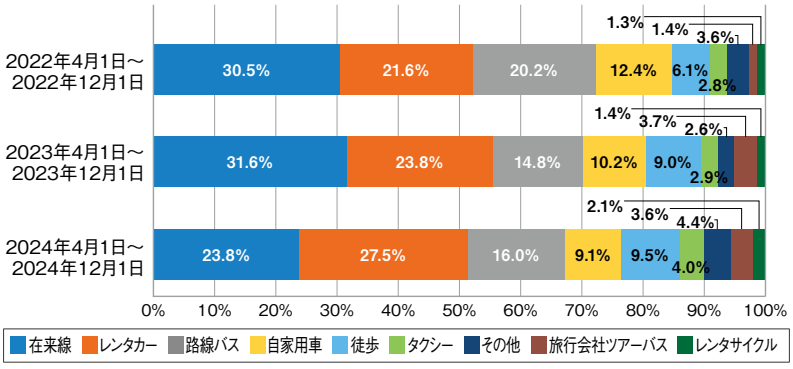
グラフ３　福井県までの交通手段



出典：福井県観光データ分析システム「FTAS」　©FTAS

新幹線・在来線・飛行機を利用した来訪者の福井県内での移動手段についてはレンタカーの利用割合が増加し、２０２４年は27・5％となった（グラフ４）。また、それらの移動手段に対する満足度は64・1％が満足と回答している。

グラフ４　新幹線・在来線・飛行機での来訪者の県内移動手段



出典：福井県観光データ分析システム「FTAS」　©FTAS

観光客の消費動向

観光客の福井県内での消費額については近年増加傾向にあるが、新幹線開業後もその動向は変わらず、２０２４年の県内での消費額の平均額は１３，９４２円となっており、交通費や宿泊費についても同様に増加傾向にある（グラフ５）。また、発地地域別の消費額を見ると、南関東地域では消費額が全国平均より大きく増加し、２０２４年の県内消費額の平均は２３，５７９円となっている。

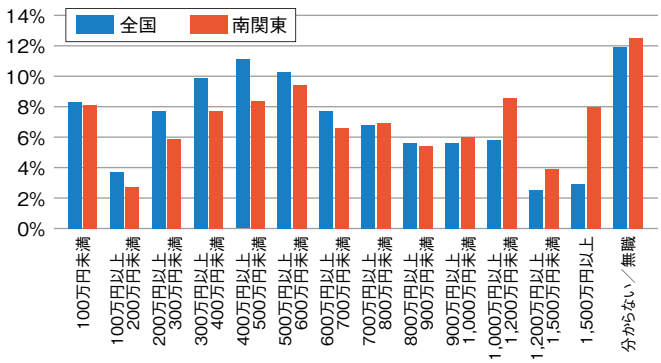
南関東地域からの来訪者の特徴として、世帯年収が全国よりも高い傾向にあり（グラフ６）、観光先での消費増加の一因になっていると考えられる。

エフタスについてはこちらから

オープンデータから これからの観光戦略を考える

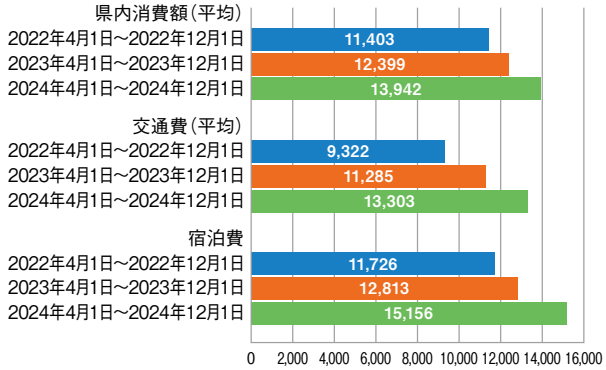
今回はオープンデータを活用して新幹線開業後の観光動向を確認したが、これらを活用することは今後の販路開拓・プロモーションを検討する上で大いに役立つことが期待できる。次のページではこれらのデータ活用も踏まえた福井の観光事業の在り方を考える。

グラフ６　世帯年収毎の回答者割合（2024年4月1日～2024年12月1日）



出典：福井県観光データ分析システム「FTAS」　©FTAS

グラフ５　消費額（円）



出典：福井県観光データ分析システム「FTAS」　©FTAS

公益社団法人福井県観光連盟の観光地域づくりマネージャーとして、観光で「稼ぐ」地域づくりを推進するために活動している佐竹正範氏に、新幹線開業という好機を迎えた福井における観光の現状と在り方について伺った。

（公社）福井県観光連盟
観光地域づくりマネージャー
佐竹　正範氏

観光事業の現状

現在、福井の主な観光ターゲットとなっているのは国内旅行者であり、その大部分を占めるのが団塊の世代である。しかし、その高齢化による行動の制限や就労年齢の引き上げなどによる可処分時間の減少により旅行者の母数自体が減少傾向にある。このような状況下で観光入込客が増加傾向にあるのは北陸新幹線開業の賜物といえる。一方で、開業効果があったとしても観光入込数から見れば、福井県は全国的には依然として観光後進県であり、この状況で満足していてはならない。

稼ぐ観光を目指して

今後の観光、地域振興に必要となるのが観光で稼げるようになることであり、そのために最も重要なことが、観光客の満足度を高め、さらに他人にも薦めたいと感じてもらえる（推奨度）エリアになることだ。県内の観光施設等に設置したアンケートの集約によれば、北陸新幹線の開業以降、福井県への旅行者の満足度と推奨度は大きく向上しており、新幹線開業を契機に県民レベルでおもてなし力の向上がなされた結果と考えられる。

次点で重要となるのがサービス・商品の磨き上げや新たな観光コンテンツの開発となる。そのためには旅行者のニーズを知ることが必須であり、そこでも役立ってくるのがオープンデータを活用することだ。

観光事業や地域課題へのオープンデータの活用は、世界的には普及していないのが実状であり、福井には、エフタスのような観光オープンデータが存在していることは、観光後進県から脱却し、稼ぐ観光を目指すための大きな武器が私たちの手元にあることを示している。

観光面から見た求められる福井の未来像

北陸新幹線の開業はスタートラインであり、これからの福井のまちづくりを考え直す機会ともなる。これまでの福井の街はあくまでも地元住民目線でのまちづくりであり、観光には不便なところもあった。北陸新幹線を活かし、観光で地域を盛り上げるためには、観光客目線のまちづくりも今後は不可欠となる。観光地として人気を増した金沢は、長い年月をかけて駅周辺に観光と共存する街を作り上げてきた。

まちづくりや観光面において主体となる行政にもその力には限界がある。住民や民間企業も自分たちがそれを支え、観光で稼ぐという意識をもち、データツールも活用しながらエリアマネジメントに参画してほしい。

観光振興が幸福度を高める

北陸新幹線の開業を経て、観光面における効果は、先に示した入込客数や消費額の増加を見ても確実に表れてきていると言えるだろう。一方で新幹線開業効果として求められてくるのは、それらの増加に留まらず、その先にあるのは県民の幸福度の向上にある。観光振興が活発化し、観光客との接点が増すことで、地元の評価を聞く機会も増し、地元への誇りを持つことに繋がる。それがさらに、より誇れるまちづくりやおもてなしの磨き上げにも繋がり、幸福度の好循環が生まれるのである。かねてより幸福度ランキングで上位に位置する福井であるが、県民がそれを実感できていないという声もある。北陸新幹線開業を契機とした変化で、観光への接点を増すことが、実感でも県民の幸福度向上につながる。

開業効果を享受するためには、私達のおもてなしや地元の商品・サービスを磨き上げる行動は欠かせない。今回取り上げたオープンデータは、そのための効果的なツールであり是非活用してほしい。